セグメント概要

産業機器関連事業

カーボンニュートラルへの大変革期のなか、新たな事業基盤の創出に注力

脱炭素社会の実現に向けて当社グループの技術を集約し、イノベーションセンターを活用した研究開発活動やタンケンシールセーコウとのシナジーにより事業の拡大を目指します。

執行役員　営業本部長兼営業1部長　**芹田 豊和**

事業概要と市場環境

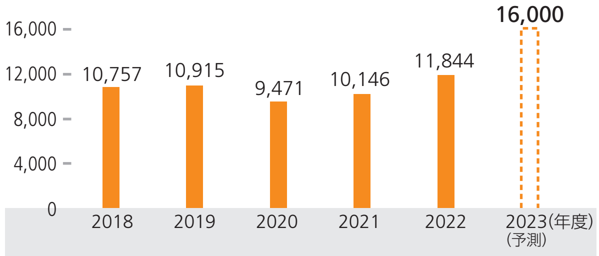
当事業では、電力や石油化学、船舶など、日本経済をけん引する基幹産業との取引が主体となっています。これらの市場はカーボンニュートラルへの取り組みが進んでおり、非化石エネルギーの推進、産業構造転換、抜本的な省エネ推進といった大変革期にあり、当社も事業機会の創出に向けて注力しています。政府のカーボンニュートラル政策が大きな推進力となり各社がさまざまな検証や実証を行うなかで、当社の製品が評価される機会をしっかりとキャッチアップしています。次世代電池、水素、電気自動車(EV)に関連する市場では、今後3～5年ほどの間に商用運用や量産化が見込まれると予測しており、2022年度は新たな成長市場における事業を確立していくための一歩となった一年だと感じています。

一方で、半導体不足やグローバル経済の分断の影響により、部材調達において、長納期化や価格上昇の影響を受けました。持続的な供給体制を維持するために、代替品の提案や設計変更の提案など、お客様の協力をいただきながら課題解決を行うといった、従前にはないお客様との交渉や調整をした年となりました。

前中期経営計画「BTvision22」の振り返り

前中期経営計画「BTvision22」は新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年度にスタートしたため、当事業を取り巻く経済活動の変化の影響を受けました。新規プラント案件の減少や、既設プラントにおける定期修理の延長・縮小により、電力市場や石油化学市場では新規需要・メンテナンス需要ともに低調となり苦戦しました。一方で、半導体市場向けの精密機器用製品は堅調に推移し、事業全体の売上と利益の改善に貢献しました。これまで同製品は日本国内の需要がほとんどでしたが、顧客のすそ野が広がり海外での需要も増加しました。その結果、「BTvision22」の最終年度でもある2022年度の売上高は前年度比+17億円(+16.7%)となり過去最高を更新しました。

■ 売上高推移グラフ(単位:百万円)



新中期経営計画「One2025」の展望

2023年度からスタートする新たな中期経営計画「One2025」において、「"脱炭素"を中心とした社会課題から生まれる新市場での圧倒的なグローバルシェアの獲得」を目標に掲げ、諸施策に取り組んでまいります。

例えば、2022年度にデジタル化社会への対応として技術部内にDX専門部隊を新たに立ち上げました。また2023年4月にタンケンシールセーコウが当社のグループ会社となり、新たな製品群と材料技術が加わりました。そして、今秋には当社グループの技術集約と自社のみならず産官学連携による技術開発や製品開発を進めるイノベーションセンターが三田工場に竣工します。このような新たな取り組みも活かして、脱炭素社会の実現に向けて産業構造が変革していくなかで、当社の総合流体制御機器メーカーとしての技術力、提案力、行動力を駆使して、社会課題の解決に貢献する新たな事業の柱を構築します。

また、石油精製市場や電力市場では世代交代が進み、保守保全の実務者が若返っていくなかで、シールの取り付け方法のアドバイスなどのメンテナンスに関するコンサルティングの需要が高まっています。当社は、修理拠点の機能拡充や社内外のリソースを活用して、講習会の開催や現場での指導などを通じてお客様との接点を増やします。メンテナンス事業を拡大し、製品単体での販売からサービスに事業を展開し、売上の拡大と収益性の向上を図ります。

今後の課題と目標

既存市場・製品においては、さらに厳しい要求に応える次世代の半導体市場向け精密機器用シールの開発や、国際規格に適応したグランドパッキンでグローバルシェアの拡大を図ります。

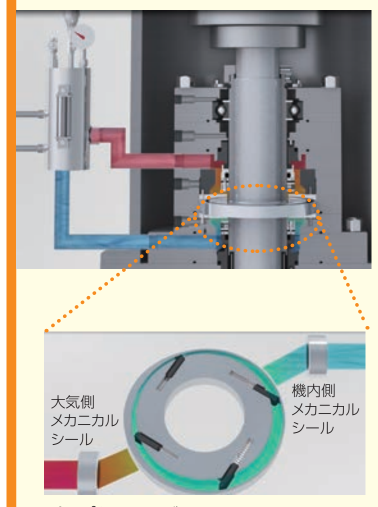
また、新市場であるカーボンニュートラル市場においては、今後商用化や量産化といった新たな段階に進むなかで、当社における事業基盤の確立を目指します。

供給体制においては、お客様への持続的かつ安定的な製品供給とリスクに備えたさまざまな提案を準備することでお客様への安心を提供していくことが重要であり課題であると感じています。

当社のコアコンピタンスである「流体を制御する技術」は、脱炭素社会に向けた環境・社会課題解決に直結しています。創業100年を目前に、改めて創業時の原点に回帰し、引き続き世の中に求められる存在でありたいと考えます。

TOPICS

システムイメージ



ポンプ部イメージ

PSCC(Pillar Sealant Circulating & Cooling System、内蔵ポンプ式シーラント循環システム)の上市

『PSCC(Pillar Sealant Circulating & Cooling System、内蔵ポンプ式シーラント循環システム)』は、メカニカルシールユニット内にポンプ機能を搭載した新しい思想のシーラント循環システムです。

これまで、撹拌機用メカニカルシールについては、封液(潤滑液)に水または溶剤を使用する場合、缶内温度が200℃を超える高温域において『プレッシャーユニット』という補器が必要でした。プレッシャーユニットはお客様の設備導入へは高価であることや設置場所に検討を要するなどいくつかの課題がありました。PSCCはメカニカルシール内にポンプ機能を内蔵することでシールユニット単体での運用が可能となり、プレッシャーユニットの設置が不要となりました。適正なシール環境を形成しながらもランニングコストの削減や省スペースに寄与し、ポンプ部分は修理可能であることから省エネルギー・省資源に貢献します。また、シンプルなシステム構成が可能となり、煩雑な運転操作も不要となりました。これからもお客様の課題を解決しながら、環境・社会課題に貢献できる製品の開発を進めていきます。